

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K12990

研究課題名(和文) ロシア文学における多様なセクシュアリティ 20世紀初頭の大衆小説を中心に

研究課題名(英文) Sexual Diversity in Russian Literature: The Popular Novels of the Early 20th Century

研究代表者

安野 直 (Yasuno, Sunao)

早稲田大学・文学大学院・助教

研究者番号：10866958

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、20世紀初頭のロシアの大衆小説において、同性愛や両性具有、性役割の反転した人物形象といった「男/女」の枠に収まらない多様なセクシュアリティがどのように描かれ、人口に膾炙していったのかを明らかにすることを目的としている。本研究によって明らかになったのは、大衆小説にあらわれる非規範的な性の表象は、西欧から流入した性科学の言説やロシアの性愛思想を取り入れつつ、形作られたものであるということである。またそうしたセクシュアリティを描いた小説が、急速な都市化・商業化の流れのなかで、「商品」として、読者＝消費者に雑誌メディアを通して伝播していったことも明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、日本のロシア文学研究においてあまり手が付けられてこなかったナグロツカヤやヴェルビツカヤ、チャールスカヤといった女性作家の大衆小説に光を当て、それらをジェンダー研究、セクシュアリティ研究の視点から分析した点である。また、現在ロシアでは、いわゆる「同性愛宣伝禁止法」の改正によって、性的少数者への人権侵害が懸念される事態となっている。現代からおよそ百年前までさかのぼり、ロシアの性的少数者の文化を掘り起こすことによって、現在ロシアのLGBTQをめぐる諸問題を考察する糸口となるだろう。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify how various sexualities that do not fit into the binary gender category, including homosexuality, bisexuality, and gender role reversal, were represented in Russian popular fiction at the beginning of the twentieth century and how they became popular.

This study shows that non-normative representations of sexuality in popular fiction were shaped by the influx of Western discourses on sexology and Russian thoughts. It is also clear that novels depicting sexuality were disseminated to readers/consumers as a "commodity" through the magazine media in the midst of rapid urbanization and commercialization.

研究分野：ロシア文学

キーワード：ロシア文学 ジェンダー セクシュアリティ 大衆小説

1. 研究開始当初の背景

ロシアでは、帝政時代からソ連時代の社会主義体制、さらにソ連崩壊による資本主義体制への移行と、他の西欧諸国以上に社会が変動し、それに伴い女性の地位や性別役割分業の規範意識、そしてセクシュアル・マイノリティをめぐる社会状況はめまぐるしく変化している。

だがそもそもロシア文学は、非規範的なセクシュアリティをあまり明示的には描いてこなかった。プーシキンや、レールモントフ、ゴーゴリ、トゥルゲーネフ、ドストエフスキー、トルストイといった、19世紀のキャノンとされる作家の作品に、そうした非規範的なセクシュアリティが明示的に描かれることは少ない。

ロシアでは、1934年の同性愛の犯罪化を契機とした性的少数者にとっての長期的抑圧を経て、ソ連崩壊後のポスト・ソヴィエト期にあたる1990年代には、刑法121条の削除を背景に、同性愛をはじめとした非規範的なセクシュアリティが文学作品のなかで、直接的に描かれるようになった。これらと前後して、ロシア文学を対象としたジェンダー批評はロシア本国に先んじてヨーロッパでなされ始め、ロシアでも1990年代前後から行われるようになった。しかしこうした研究は、20世紀初頭の象徴主義の作家・思想家、あるいは現代の女性作家研究に焦点を当てるものが多い。

しかし実は、20世紀初頭の大衆小説にこそ、現代では「LGBTQ」と総称される多様な性の在り方が示されており、そうしたジャンルの作品を研究することによって、現代のジェンダーをめぐる問題の解決にも寄与できると考えられる。というのも、20世紀初頭には、固定化された「男/女」の性役割や規範自体を根本から問い直す思索が、哲学・文学・芸術など広く言論の場で巻き起こったが、大衆小説は、同時代の象徴主義と比較して、扇情的内容を扱い、当時の社会状況や言説と性の表象とが密接に関連しているからだ。

2. 研究の目的

本研究は、20世紀初頭のロシアの女性向け大衆小説において、現在では「LGBTQ」などと総称される同性愛や両性具有、性役割の反転した人物形象といった「男/女」の枠に収まらない多様なセクシュアリティがどのように描かれ、人々の間に広がったのかを明らかにすることを目的としている。ロシアでは1905年の革命を契機として、検閲が廃止されたことで、これまでにない自由な表現が可能となり、セクシュアリティを主題とした作品が次々と登場し始めた。当初、そうしたセクシュアリティをめぐる諸問題は、ソロヴィヨフやローザノフといった思想家らによって形而上学的に議論され、さらにはブロークやクズミン、ギッピウスといった象徴主義の詩人・作家によって取り上げられてきた。それが次第に、一部の秘儀的文化のなかにあったエロス論が、商業メディアや大衆小説によって平易な言語で煽情的に取り上げられ、大衆の読者層の間に広がっていった。それゆえ、大衆への伝播において大きな役割を果たした女性向け大衆小説とそれをとりまくメディア・社会状況を本研究課題では中心的に考察する。

ロシアでは2013年に、未成年者への「非伝統的性関係」の宣伝を禁止する、いわゆる「同性愛宣伝禁止法」が成立し、性的少数者の人権、さらにはセクシュアル・マイノリティを扱った文化への抑圧が懸念されている。本研究は、ロシア文化において「男/女」の二元的セクシュアリティにおさまらない文化を考察することによって、現代ロシアのセクシュアル・マイノリティにたいする人権侵害の解決の糸口を探ることも同時に目的としている。

3. 研究の方法

本研究は、ヴェルビツカヤやチャールスカヤ、ナグロツカヤといった作品テキストの分析、『ヴォリフ書店ニュース』や『ニーヴァ』といった小説の宣伝を可能とした商業雑誌の精査、統計や女性解放運動の資料や医学書などの分析を通じた当時の社会状況や医学的言説の把握、という三つの方法を用いて研究を遂行した。

については、ヴェルビツカヤの『幸福の鍵』や、ナグロツカヤの『ディオニュソスの怒り』、さらに少女小説の作家チャールスカヤの『小公女ジャヴァーハ』を対象とした。さらには、プレシュコ・プレシュキーの『世界チャンピオン』といった、男性作家による「男らしさ」を描いた作品も対象とした。

については、『ヴォリフ書店ニュース』や『ニーヴァ』の中から上記のテキストの出版前後の記事や広告を分析し、メディアによって作家のイメージがいかにか構築され、宣伝にいかされていったのかを考察した。

については、当時の人口動態や都市への流入率、精神医学書を精査した。

以下、各項目の具体的手法を表に示す。

作品テキストの研究

大衆小説においては、男女の性役割の反転や異性装、同性愛の描写など、これまでのロシア文学にはみられない特徴があるが、これまでほとんど研究されてこなかった。そこで、とくに多様なセクシュアリティが描かれるナグロツカヤの『ブロンズの扉のそばで』（1914）を中心に、ヴェルピツカヤ『幸福への鍵』（1909-1913）やチャールスカヤの少女小説を対象とし、テキストに描かれる人物造形に着目し、規範的な性役割からどのような点で異なるのかを指摘した。『ブロンズの扉のそばで』の検討に際しては、ロシア語版は検閲による伏字箇所が多くあるため、同時代に翻訳された完成稿に近いドイツ語版の『ブロンズの扉』を参照することで、当時のロシアにおいて、どのような描写が「正常」からの逸脱とみなされていたのかを明らかにした。くわえて、大衆作家プレシュコ=プレシュコフスキーのレスリングを主題とした『世界チャンピオン』（1908）を分析し、当時のロシアにおいて規範的「男らしさ」がいかに構築されているのかを検討した。

商業雑誌の精査

ロシアの女性向け大衆小説が支持を得た要因として、作品が広く流通する媒体となった雑誌メディアの影響が考えられる。しかしながら、これまでの大衆小説研究の多くは個別のテキスト分析に偏っており、メディアとしての大衆小説のもつ特質である商業的流通については、検討される機会が少なかった。したがって、本研究では女性向け大衆小説が広く流通する契機となったであろう「商業雑誌」というメディアのもっていた社会的・文化的機能に着目する。

具体的には、当時のロシアのマーケットでもっとも影響力のあった出版社のひとつであり、女性作家の特集や作品紹介を積極的におこなっていたヴォリフ社の写真・イラスト付きカタログ雑誌『ヴォリフ書店ニュース』（1897-1917）について、性愛に関する記事やそうした関係を示唆させる挿絵に着目し、多様なセクシュアリティのイメージがどのように大衆に流布していったのかを明らかにした。また、商業誌『ニーヴァ』の広告欄にも着目し、当時の消費文化と大衆文化との関係を考察した。

社会状況や医学的言説の把握

20世紀初頭のロシアでは女性解放運動の機運が高まり、さらには性科学が西欧から流入した。女性向け大衆小説にもこうした社会運動や性科学に関する描写や言及がみられ、テキストに描かれる性をめぐる言説と不可分な関係にあったと考えられる。そこで、タルノフスキーの『性的感覚の倒錯』（1885）といった医学書や法学者ナボコフの同性愛の脱犯罪化をめぐる議論など、文学以外の医学や法学の領域における言説をあわせて参照した。また当時の統計資料や女性解放運動関連の文献を精査した。

4. 研究成果

本研究課題が対象とした女性向け大衆小説では、進歩的女性像である「新しい女性」の形象にくわえ、同性愛や性役割の反転した人物形象などの「性」の表象が、一方で既存の規範から逸脱しつつ、他方で「男／女」や「異性愛／同性愛」の境界を強化するという矛盾をかかえながら、書誌雑誌や広告をとおして広く言論の場に流通した。さらにその際、女性作家たちは女性嫌悪的思想や性科学といった支配的な言説や言語を用いつつ、密かにそれらをずらす密猟的戦術を採った。女性向け大衆小説は、ジェンダー（女性）とジャンル（大衆）という点において「弱者」であったが、「強者」の権力的秩序を奇貨として利用することによって、規範やヒエラルキーを転覆する力をもったのである。

女性向け大衆小説は、芸術的価値より商業的成功に重点を置いており、19世紀後半以降の社会の変化（識字率の向上、出版や流通メディアの拡大、プチブル的市民文化の成立）を背景に興隆し、20世紀初頭の言論のなかで次第に存在感をみせるようになった。女性作家の手による大

衆小説は、男性に依存しない女性像や両性具有、同性愛など、当時のロシアにおいて活況を呈していたセクシュアリティを主題としてあつかい、それらをメロドラマ的に扇情的に描いた。こうした作品は、同時代の他の文学ジャンルよりはるかに多くの読者を有し、さらに 1860 年代に生じ、20 世紀初頭には「女性同権同盟」といった大きな組織へと編成されていった女性解放運動の影響を大きく受けていたと考えられる。

また本研究課題を通して、20 世紀初頭のロシア社会のジェンダー構造も明らかとなった。18 世紀以降に次第に形成されていった近代化による男女の領域の分化は、さらに世紀転換期頃のロシアの都市部では、産業化に起因する職住分離によって、より明確なものとなり、「男/女」を空間的に分ける境界は強固になった。ロシアの都市部では、ヨーロッパに遅れをとりつつ、男性を公的領域に、女性を私的領域に置くジェンダー体制が形成されつつあった。それゆえ、20 世紀初頭のロシアにおいては、ある程度、西欧諸国と類似した性秩序が成立していたと言えるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 安野 直	4. 巻 66
2. 論文標題 ロシアの女性向け大衆小説における女性解放	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院 文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 467 -482
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 安野 直	4. 巻 52
2. 論文標題 ベストセラー現象を読み解く	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ロシア語ロシア文学研究	6. 最初と最後の頁 25 ~ 44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32278/yaar.52.0_25	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 安野直
2. 発表標題 ポスト・ソヴィエト時代のロシア文学とLGBTQ 「他者」としての同性愛者像の出現から性の解体へ
3. 学会等名 早稲田大学ロシア文学会秋季研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安野直
2. 発表標題 ロシアに「LGBT」は存在するのか？
3. 学会等名 第23回ユーラシア・セミナー（ユーラシア研究所）（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 安野 直	4. 発行年 2022年
2. 出版社 群像社	5. 総ページ数 320
3. 書名 ロシア文学とセクシュアリティ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------